

## 議長定例記者会見 会見録

日時：平成24年8月6日10時30分～

場所：全員協議会室

### 1 発表事項

公共政策大学院インターンシップ実習生受入れについて

第6回紀伊半島三県議会交流会議について

近畿2府8県議会議長会議について

### 2 質疑項目

発表事項に対する質疑

・公共政策大学院インターンシップ実習生受入れについて

・近畿2府8県議会議長会議について

鳥羽港の改修工事に関する公文書改ざんについて

通年制について

名古屋市議会議員の公費視察に関する報道について

### 1 発表事項

公共政策大学院インターンシップ実習生受入れについて

(議長)おはようございます。ただ今から8月の議長定例記者会見を開催させていただきます。まず始めに、三重県議会インターンシップ実習生の決定について発表をさせていただきます。平成21年度から実施しております三重県議会へのインターンシップ実習生の受け入れについては、6月29日までを募集期間としていましたが、4つの大学院から計5名の応募があり、厳正なる選定を行った上で、2名の方を実習生として受け入れることを決定させていただきました。お手元の資料をご覧ください。受け入れを決定しましたインターンシップ実習生は、田村 真善(たむらまさよし)さん、22歳男性、東京大学公共政策大学院生でございます。そして、山本 剛(やまもとつよし)さん、この方は23歳男性で、京都大学公共政策大学院生でございますが、この2名に決定をさせていただきました。それぞれ地方自治、特に地方議会に関心を持ち、将来的に地方自治に関わる仕事をしたい、あるいは今後のキャリアに生かしていきたいと、そういう動機から応募をされたそうでございます。ぜひ、議会事務局の実務に幅広くかつ深く関わって、有意義な実習としていただきたいと思います。おるところでございます。

## 第6回紀伊半島三県議会交流会議について

(議長) 2番目、次の発表事項でございますが、第6回紀伊半島三県議会交流会議についてでございます。これは紀伊半島の振興および発展に資するため、紀伊半島三県に共通する課題等について意見交換を行うとともに、必要に応じて関係機関に対する要望、その他の活動を行うことを目的として設立され、第6回目の会議が三重県で開催をされるところでございます。お手元に配付しました資料のとおり、明後日8月8日水曜日午前11時30分から、紀宝町生涯学習センター「まなびの郷」で、和歌山県、奈良県、三重県の3議会議長、副議長ならびに県境に隣接する地域を選挙区とする議員が集まり開催をいたします。今回の議題は「紀伊半島大水害からの復旧、復興について」でございます。紀伊半島三県に甚大な被害を及ぼした紀伊半島大水害からまもなく1年が経とうとしている中で、各県の復旧状況を報告し、復興について意見交換をする予定となっております。今回の会議を通じ、三県が共に協力し復興がより一層進むことを期待をいたしておるところでございます。

## 近畿2府8県議会議長会議の開催について

(議長) 3番目でございます。近畿2府8県議会議長会議の開催についてでございます。これは近畿府県相互の情報を交換し、緊密な連絡協調のもとに、円滑な議会運営と地方行政の推進を図ることを目的として設定されているものでございまして、今年の会議は三重県で開催されます。お手元に配付しました資料のとおり、今月8月27日月曜日、午後3時から志摩市の賢島宝生苑で、近畿2府8県の各議会議長および副議長が集まり開催をする予定でございます。当日は、各府県から提出される議案を審議し、合意された内容について、国などの関係機関へ予算や施策の提言を行っていく予定でございます。今回の会議を通じ、近畿府県が共に協力し、地域の振興がより一層進むことを期待をいたしておるところでございます。以上3点、発表事項として申し上げたところでございます。

## 2 質疑応答

### 発表事項に関する質疑

#### ・公共政策大学院インターンシップ実習生受入れについて

(質問) 一番目のインターンシップですけど、東大の大学院の方、東大の方が入られたのは今回が初めてですか。過去なんか京大だったと思うんですけど。

(議長) 昨年も東大の方はみえました。

(質問) 結局、今回その4つの大学から5名ということで、この2名に絞ったということですね。その選考のポイントは何ですか。

(議長) 総合的な判断をしたということ。

(質問) 総合的判断の中身は何ですか。論文とかありましたっけ、応募の時。相手の方が論文書いてとかそういう審査でしたか。

(議長) 私どもはですね、正副が事務局からいただいた資料の中では、動機についてとかですね、そういったことのペーパーを元にですね、もし採用されるとしたらこういうことをやりたいというようなそういう志望動機がかなり細かく記載されておりましたので、なるほど、こういう方はこういうことを思いながら実習生として応募したんだなということは正副で読まさせていただきました。

(質問) ということは、正副で選ばれたという色合いが強い。

(議長) 最終的にはですね。

(質問) この事業の、インターンシップ終えられた方々との交流的なものというのは今も続いているんですか。

(議長) ありません。

(質問) やりっぱなし。

(議長) やりっぱなしっていうかですね、それぞれの所で活躍されているというふうに思います。

(質問) 改めてこのインターンシップ実習生のこの事業続ける意味って何ですか。

(議長) そうですね。例えばこの制度を利用してっていうことですね。参加することによって、例えば三重県庁の職員として頑張りたいとかですね、そういったこともあろうかと思えます。また、この実習生の中で、三重県庁の職員になられた方もみえるやに聞いておりますが。

(質問)以前ですか、何年、今年。(事務局から「一昨年」と回答しましたが、後刻確認したところ「昨年度」でした。)

・近畿2府8県議会議長会について

(質問)近畿2府8県ですけど、各府県から提出の議案審議ということなんですが、ちなみに三重県からはどういったことを挙げられるんでしょう。

(議長)まだですね、最終的にどういった三重県としての議案を持っていくかということは今調整中でございます。

(質問)ということは、まだ決めていないということ。

(議長)はい。

鳥羽港の改修工事に関する公文書改ざんについて

(質問)三重県が地元の鳥羽港の改修工事に絡む件で、公文書改ざんという事案があったわけですがけれども、今後県議会としてですね、どういった姿勢で臨まれるお考えなのかということ、会派も変われますので議長、副議長それぞれお考えを教えてください。

(議長)あつてはならないことが起こってしまったわけですが、県職員としてですね、公務員としての自覚というかですね、より公務員としてですね、自覚を求めていきたいなというふうに思うんですが、この件につきましては、今度全員協議会なりですね、そういったところで各議員の方からも執行部に対して質問するというような機会があるかと思えます。それについて明確な執行部からのですね、答えが返ってくるのかなというふうに思いますが、ただ、現在進行形でございますので、どこまでその真相が解明できるか、また今回のこの件についてですね、不祥事といえば不祥事ですけども、県民に対してどう説明するのかというところが大きな課題かなと思えます。それと同時にわれわれ議会に対してもそうですけど、県民に対してもですね、より一層透明な県行政の在り方についてということですね、説明する県としての責務があるのかなとこんなふうには思います。

(質問)副議長いかがですか。

(副議長)改ざんはあつてはならないことですし、徹底的な解明と再発防止に向けた対策をきちんと確立してもらわなければならないと思えますが、8月末

に調査結果が出てくるでしょうから、それを見た後、判断ということになるのかと思います。

(質問) 関連ですけど、今の公文書改ざん、副議長、職労ご出身でいらっしゃるからお聞きしますが、たぶん田川さんの時代からずっとこういうことがあって、公文書改ざんじゃなくてですよ、職員の不祥事とかずっと続いてて、野呂さんの時にある程度経営品質向上などでそこに手を入れたという形になってますが、実際問題数は減っているかもしれないけど、無くならないですね。その辺というのは結局、組織が大きくて職員数が多いからこれはこれで致し方ないことなのか、100%ともし仮に目指すなら、どういうことに手当てしているのがあるか、お考えのことがあれば。

(副議長) 今回は公共事業の事故繰り越しが発端ですよ。事故繰り越しそのものについては、一定さまざまな要件がありますから、制度上やむを得ないところもいっぱい出てくると思うんです。しかし、それを正当化するためにこういった形の改ざんというのは決してあってはならないはずですし、たくさんの職員がみえますから、今回もある面ではいわゆる自分の利益のためにというよりも、工事を補助金を有効に使っていきという思いの中からですので、見とってつらいところはありますけども、ただ、完全に無くすというのは、交通事故を完全に無くすのと同じくらい難しいことかなという感じはします。きっかけ、発端、それぞれ理由、いろいろあろうかと思えますし。

(質問) 繰り越しているのは、全庁的に他部署でもあるわけで、その手順に従って通常どおりやれば良かったんですね。

(副議長) おっしゃるとおりだと思います。

(質問) そこは何か、魔が差したというか、一部そういう形でやられてしまったというところですね。

(副議長) そうですね。でもどんなに魔が差しても改ざんはだめです。

(質問) 2点、副議長に今の問題でお伺いしたいんですけど、副議長、結構質問で公文書管理法とか条例の質問もされていて、お詳しいと思うんですが、今回の問題でそういったところにまで問題があったとお考えなのかということとですね、8月の末の調査を待って判断とおっしゃいましたけども、それで十分とお考えなのか、その辺を。

(副議長) 公文書管理法は、きちんとした正式な会議や何かを記録として残すということですから、これとは直接は関係ないと思うんです。それと、今やっぱり第三者の大学の先生をはじめとする3名の方、専門委員会で調べていただいていますし、ぽちぽちと新聞では報道されていますけども、その最終報告を見た上で対応というのは、一番の今の私のコメントかなと思っています。ただ基本的に改ざんはだめですよというのは、もう一貫して言えることですけど。

(質問) 議長に戻します。仮に執行部がやっている報告書等が、専門委員会、あれが不十分だとした場合に、議会として例えば特別委員会なりプロジェクトなり何か立ち上げてですね、議会としてこれを調べるとかいうことは、今後の展開としてあり得ますか。

(議長) 報告書を見てからの話ですから、今のところ何とも申し上げられませんが、代表者会議等でですね、今後、議会としてどう取り扱っていくのかということとは十分念頭に置きながらですね、この8月末の報告を待ちたいなとこんなふうに思います。

#### 通年制について

(質問) 会期見直しの検討プロジェクトで、通年制にすべきだという最終報告がまとまったと思うんですが、改めて通年制にすることによる、特に三重県で全国で3番目にやる意義、メリットを伺えますでしょうか。

(議長) ご承知のとおりですね、いつでも議会が開かれておることですから、ああいった災害等についてですね、すぐにでも議会が開かれていますから議論ができるというようなメリットもあるでしょうし、また議長の招集権の問題にもですね、関連してくるわけですので、そういったメリットもあるのかなというようなそんな感じもします。ただ、国の方ですね関係省庁、総務省ですが、あと国会議員のところへ行きますと、常に執行部が議会に呼び出されるのではないかなというようなそんな懸念もある、そういう議員もいるんです。だけどそうじゃないと、必要な時しか議会にはですね来てもらわなくて結構ですよということを言ってますので、その辺のところは払拭されているんじゃないかなというふうに思いますが、ただ、国会が今こういう状況でございますので十分な審議がされないままですね、もし閉じるとしたら非常に残念でございます。ですので、なんとか公職選挙法の改正とあと地方自治法の改正、われわれ地方議会に関係するこの二つの案件については審議を深めてもらいたいな、こんな思いでいっぱいですね。特に地方自治法の改正というのは、もう

これ委員会採決あと本会議での採決ということですからお盆を挟んでうんぬんということじゃなくて、しっかりとした議論を展開してもらいたいなとそんなふうに思いますね。

(質問)最終的に自民みらいが通年制でまとまったっていうのは何でなんですか。初期は反対されている方がいらっちゃって、半数近くは現状あるいは旧に復して4回定例制でいいんじゃないかという話もありましたが、最終的に新政みえさん主流の通年制っていうのに乗られたじゃないですか、それについてはなぜなんですか。

(議長)検討会議で協議をしていただいていたわけですね、最終的にですね、決定打というのが何かということですが、時代の趨勢もあるでしょう、地方議会のわれわれ議会議員としてのですね、権能を高めるということもあるでしょう。また機会も増えるということもあるでしょう。あと駒沢大学の大山礼子先生を呼んでですね、議員に対していろいろとレクチャーしていただいたということもあるかもわかりません。それが全てではないんでしょうが、最終的にOKと導入ということになったんではなかろうかなと、こんな感じがいたしておりますが。

(質問)来年以降の役選がらみでバスター(「交換」の意)したということではない。

(議長)いや、全くそれは無いですね。そんな話初めて聞きました。

(質問)そうですか、私が聞くぐらいだからすでに出ていると思いますが。

名古屋市議会議員の公費視察に関する報道について

(質問)別の議会とはいいながら、名古屋市議会で女性同行で視察されたという議員がいらっしゃるんですけど、これに対して同じ議員としてですね、どういふふうなお考えでしょうか。あってしかるべきじゃないとか、もろもろですね。

(議長)やっちゃいけないですよ。

(質問)いけないですか。

(議長)いけない。女性と一緒にという話でしょ、今の。そういうことはやっ

ちゃいけないと思います。個人的にやってもらえばいいんですが、政務調査で行ったっていうんでしょ、それはいかんと思いますね。

(質問) ちょっと、後の対応もはっきりしないんですけど、2週間くらい姿をくらましていたとか、あの辺も議員としての資質とかそういうことも含めて何かお考えになることありますか。

(議長) これ個人的になるんですが、あまり議員が議員を批判する、他県ですら議員さんを批判するというのはあまり良くないというふうに思いますが、議員の資質が欠けているというふうに思わざるを得ないと思います。交通事故を含めてですね。それと対応が、もう少し市民の人たちに対してですね、わびるところはわびる、そういった素直な対応が必要だったのではなからうかなと、そんな個人的な思いはしておりますが。

( 以 上 ) 10時52分 終了